

# 地域包括支援センター事業評価ヒアリングについて

## ヒアリング日程・評価委員について

2月13日(月)

久松 信夫 様(桜美林大学)  
井上 修一 様(大妻女子大学)  
矢島 史稔 様(町田市介護サービスネットワーク)  
大倉 博志 様(町田市市民代表)  
江成 裕司(町田市いきいき生活部高齢者福祉課)  
青木 範和(町田市いきいき生活部高齢者福祉課)

2月14日(火)

大島 泰嗣 様(町田市ケアマネジャー連絡会)  
井上 修一 様(大妻女子大学)  
草道 倫武 様(第一東京弁護士会)  
梅田 あき子 様(町田市市民代表)  
江成 裕司(町田市いきいき生活部高齢者福祉課)  
青木 範和(町田市いきいき生活部高齢者福祉課)

# ヒアリング当日の内容について

---

## ■ヒアリング(40分間)

- ①今年度の重点事業計画書兼報告書について各センターから説明(5分)
- ②事業計画書兼報告書・事業評価表に関する質疑応答。委員からの意見(35分)

## ■ヒアリング後のまとめ(10分)

- ①事業計画書兼報告書におけるセンターへのコメントの検討
- ②事業評価案の確認

## ヒアリングでの主な質問について①

---

○虐待対応の項目に関連して、

虐待対応を行う際に、個人ではなく、組織として対応するような体制が重要だと思います。例えば、支援方針の決め方や、職員の役割分担、職員のフォローについてどのように行っているのか教えてください。

<主な回答>

・初回の情報収集は主に社会福祉士が行っている。3職種で方針の検討を行い、その結果、虐待報告書を提出することになった場合、朝礼や夕礼にて全センターで共有し、意見交換等を行っている。

・報告があった場合に全員で状況の把握を行い、本人、虐待者、関係機関から情報集を行い再度職員全員で共有し報告書を提出している。市からコアメンバー会議録(虐待認定)を受けた後、それぞれ担当を決めて対応している。

・支援方針は朝礼、夕礼にて職員全員で検討している。虐待対応は2名体制で行っており、状況に応じて他の職員もフォローをしており、担当のみの負担にならないよう考慮している。

## ヒアリングでの主な質問について②

---

○地域ケア会議の項目に関連して、

地域ケア推進会議の議題に反映させるにあたり、支援センターの中で、どのようにして地域が抱える課題の抽出や分析を行っているか教えてください。

<主な回答>

・会議や相談の中でよく出てくる意見や課題を分析した結果、必要と思われる内容について地域ケア推進会議で取り上げている。よく出てくる意見でなくても、地域全体に当てはまり、推進ケア会議で検討したほうが良い内容のものは地域ケア推進会議で取り上げている。

・圏域として行うケア会議は、3職種が携わることで多角的な視点で物事を見られるようにしている。地域課題の抽出について、一つひとつの個別ケースの中から、地域で共通するような事例を抽出しており、その中から圏域にあげて検討が必要と思われる題材があれば、圏域内の支援センターで話し合いを行い、圏域のケア会議で取り扱うか否かを決めている。

・企画運営部会で医療分野の先生に参画してもらったり、圏域で地域ケア個別会議の課題を集計し分析を行ったりして課題を抽出している。また、福祉分野のみでなく医療分野との連携も行っている。

## ヒアリングでの主な質問について③

---

○介護予防支援・ケアマネジメントの項目に関連して、

介護予防支援・ケアマネジメントにおいて、状態が改善し終了となっている方はどのくらいの割合でしょうか。また、要支援者の自立支援、重度化防止のためにセンターとして取り組んでいることがあれば教えてください。

<主な回答>

・月平均460件前後あり、その中で終了ケースは10件に満たない。自立支援の取組として、導入時に終了を目指すことを伝えることや、自主グループ等のチラシを配布しているが、コロナ禍で休止しているグループも多く、地域の社会資源に繋げていくケースが少なかった印象である。

・毎月250件(新規5～10件、終了5～10件(このうち改善して終了するのは2～3件)介護予防に力を入れており、通所Cに案内をしているものが多い。今年度は現在14名終了している。総合相談を行う中で、地域資源の活用、情報提供に力を入れている。

・1カ月当たり、260件程度あるが、改善は1%未満である。終了となる方は、70代の方は軽度のケガが多い。80～90代の方は現状維持にとどまっている。

